

福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成28年6月号）

福島第二原子力発電所1～4号機は、燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

燃料の冷却を継続するために 定期的に電気設備の点検を実施しています

○燃料の冷却や監視には電気を必要とするため、電源盤や変圧器などの電気設備について、定期的に設備を停電させて点検を実施しています。点検は、作業安全と燃料冷却の手段を確保しながら進めています。

○6月に実施した点検では、以下の点に考慮して実施しました。

- ・作業員の感電防止のため、点検する設備を停電させたうえで、検電器による確認や接地（アース線）の取り付けなどの安全処置を実施しました。
- ・点検する電気設備を停電させても、燃料冷却を継続できるよう、電源を切り替えました。また、万が一この電気が止まっても、速やかに燃料冷却を再開できるよう、予備の電源を確保しました。
- ・高所作業時には安全帯の使用を徹底するなど、墜落防止を図りました。



検電器を使った電圧有無の確認



接地（アース線）の取付



断路器の点検・清掃



変圧器類焼防止装置の起動確認試験

ガスタービン発電機車の屋外ケーブルについて 小動物対策を講じています

○緊急時における電源強化対策の一環として、構内高台へガスタービン発電機車2セット（発電機車と制御車で1セット）を配備していますが、点検中の1セットにおいて、発電機車と制御車をつなぐケーブルに損傷があることを確認しました（5月16日不適合管理会議審議分として翌日お知らせ）。

○原因は、当該ケーブルを収納している箱（トレイ）の中にネズミが侵入し、損傷させたものと推定しました。

○対策として、損傷したケーブルの取り替えや、トレイの中に小動物が侵入できないよう、すき間をシートで覆うなどの処置を実施しました。なお、ケーブル取り替え後の起動試験で、健全性を確認しました。

○今後、他の1セットについても、同様の対策を講じていきます。



ガスタービン発電機車とケーブルトレイ



損傷したケーブルのイメージ

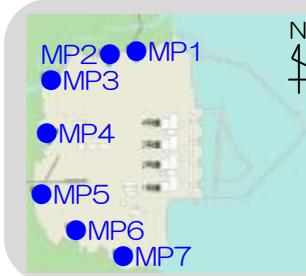


対策前のすき間



対策後の状況

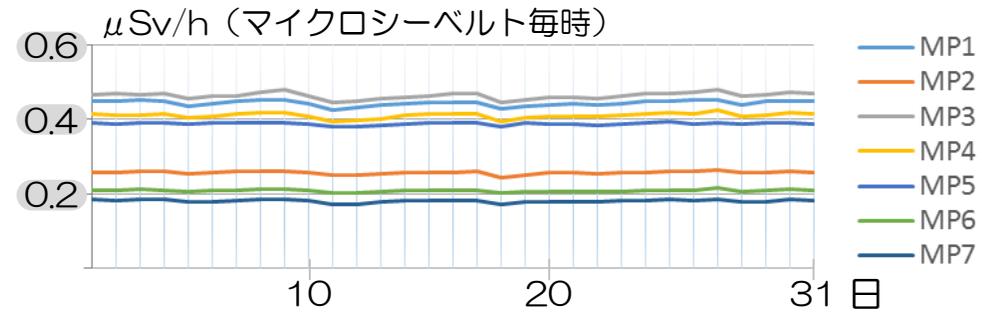
発電所周辺の放射線量計測状況(5月分)



構内に設置している全7基のモニタリングポスト(MP)により敷地周辺における空気中の放射線量の測定を常時行っています。

◇天気と放射線の関係について

空気中の放射線量については、天気によって変動します。一般に、雨が降ると空気中の自然の放射性物質が地表に落とされ上昇します。一方、雨による水たまりや積雪ができて、大地からの放射線が水や雪によって遮られ低下します。



みなさまのご質問にお答えします

Q. モニタリングポストの値に差があるのはなぜですか？

A. 福島第一原子力発電所の事故の影響により事故前よりも高い値で推移していますが、モニタリングポストの設置環境の違いにより差があります。

補足 MP1、3、4、5の放射線量の値が高いのは、周囲を木々に囲まれており、落葉が堆積した土壌から放出される放射線の影響を受けやすい環境にあるためです。

これまでの使用済燃料プール水温度やモニタリングポストの計測状況については、当所ホームページをご覧ください。

ホームページURL
<http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>

QRコード



発電所敷地境界付近に設置してあるモニタリングポストの定期点検を実施しました

- 発電所敷地境界付近には、全7基のモニタリングポストを設置し、空間放射線量率（1時間あたりの放射線の量）を連続測定・監視しています。
- これらのモニタリングポストについては、外観目視や基準線源を用いた指示値や記録計の確認などの点検（年1回）を5月末から約10日間かけて実施しました。
- 点検後は、動作確認を行い正確に測定できることを確認しました。



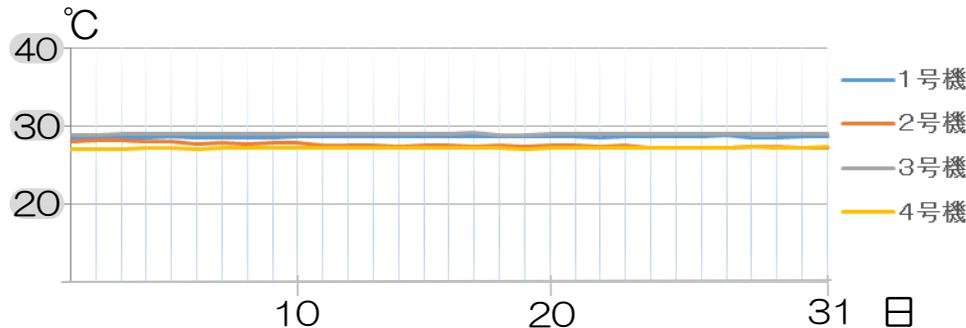
モニタリングポスト



測定データの採取

燃料の冷却状況(5月分)

使用済燃料プール水の温度は、30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。



福島復興への責任を果たすために、福島第二原子力発電所は引き続き燃料の安定冷却を継続してまいります。

【お問い合わせ】福島第二原子力発電所 企画広報グループ
 tel 0240-25-1353 受付時間(平日)午前9時～午後5時